

## 平成23年度 第1回 鳥取市生活交通会議 議 事 要 旨

1. 日 時 : 平成23年7月28日 (木) 14:00~15:30

2. 場 所 : 鳥取市役所 本庁舎 4階 第3会議室

3. 出席者 :

○会 長	[学識経験者]	鳥取大学大学院 工学研究科 教授	谷 本 圭 志
○副会長	[鳥取市]	都市整備部長	大 島 英 司
○委 員	[住民・利用者代表]	鳥取市小学校PTA連合会	山 田 淳
		市自治会連合会 (旧鳥取市, 国府町, 福部町)	南 部 敏
		〃 (河原町, 用瀬町, 佐治町)	谷 村 萬 吉
		市老人クラブ連合会 (旧鳥取市, 国府町, 福部町)	前 田 豊
		〃 (気高町, 鹿野町, 青谷町)	本 部 享 司
		鳥取市連合婦人会	油 谷 都 々 江
	[運送事業者]	日ノ丸自動車株式会社 営業部長	中 島 文 明
		日本交通株式会社 業務課 係長	山 本 高 広
		西日本旅客鉄道株式会社 鳥取鉄道部運輸科長	三 谷 宏 志
	[事業者団体]	鳥取県ハイヤータクシー協会東部支部長	橋 本 貞 治
		私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部執行委員長	村 上 恵
	[中国運輸局]	鳥取運輸支局首席運輸企画専門官	高 田 修
	[警察]	鳥取警察署交通第一課長	樋 口 敬

○事務局 : 鳥取市都市整備部交通政策室 (鈴木、九鬼、伊藤、有本、遠藤)

○その他 : 株式会社バイタルリード (森山、古川)

4. 次 第 : 1) 開会

2) 会長挨拶

3) 報告事項

監査委員の氏名について

4) 協議事項

### 【地域公共交通会議】

案件1 自家用有償旅客運送(市町村有償運送)気高循環バス・絹見バスの更新登録について

案件2 平成22年度鳥取市生活交通会議事業報告・決算について

案件3 平成23年度鳥取市生活交通会議事業計画 (案) について

案件4 南部地域新総合公共交通計画について

案件4-1 新しい総合公共交通システム導入の進捗状況

案件4-2 南部幹線の運行計画 (素案) について

5) その他

## 5. 議 事

### 案件1 自家用有償旅客運送（市町村有償運送）気高循環バス・絹見バスの更新登録について

- 事務局・交通政策室（伊藤） 資料説明（資料2 自家用車有償旅客運送の更新登録について）
- 谷本会長 自家用車有償旅客運送については、特段の変更はないということか。
- 事務局 特段の変更はない。
- 谷本会長 どのくらいのスパンで申請する必要があるのか？
- 事務局 3年間で申請が必要になる。軽微な変更であれば、その都度申請することで変更も可能。
- 橋本委員 広報を工夫してほしい。伝えているつもりでも、なかなか住民には伝わっていない。住民に乗っていただくための工夫をする必要がある。高齢者には、バスの乗り降りも辛い。ドア・ツー・ドアの運行も大切だが、乗り降りのしやすさ（車両のバリアフリー）も改善することも考えていただきたい。
- 谷本会長 今のアドバイスは必要性の話というよりは、今あるサービスを有効に活かしていくということだと思う。
- 事務局 気高循環バス・絹見循環バスともに JR に接続することを基本に考えているが、改正がある度に広報を町内全域に配布している。気高循環バスの運行は年数も経過しており、みなさんから意見をいただき改善できるところは改善していくようにしていきたい。絹見循環バスは、現在はほとんどが小学生の利用となっている。高齢者の利用もわずかではあるがあるため、意見を聞きながら改善していきたい。更新の申請は、気高循環バスと絹見循環バスを合算した形で行っている。
- 谷本会長 気高循環バス・絹見循環バスともに、一定の役割を果たしていることは利用状況を見てもわかる。しかし、今のままよりも改善していくことは、今後も必要である。
- 谷本会長 案件1に関して異議はないか。同意ということによいか。
- 委員一同 異議なし
- 谷本会長 それでは、本件に関して承認とする。

### 案件2 平成22年度鳥取市生活交通会議事業報告・決算について

- 事務局・交通政策室（有本） 資料説明（資料3 平成22年度鳥取市生活交通会議事業報告書について）
- 橋本委員 資料説明（会計監査報告書について）
- 谷本会長 案件2に関して異議はないか。同意ということによいか。
- 委員一同 異議なし
- 谷本会長 本件に関して承認とする。

### 案件3 平成23年度鳥取市生活交通会議事業計画（案）について

- 事務局・交通政策室（遠藤） 資料説明（資料4 鳥取市生活交通会議事業計画）

谷本会長 IC カードについて、乗り継ぎ抵抗軽減のため IC カードを利用するということが、市内全域を対象に導入する見込み、協議の状況、現在どのような段階にあるのかなど知りたい。

事務局 開発費が非常にかかることで慎重に進める必要がある。導入にあたって、事業者との調整を行っている段階。初期経費だけでなく維持費などについても、負担金というかたちで事業者に補助することも検討している。具体的な金額や将来の方向性など、事業者と協議を進めながら検討している段階である。もうしばらく、時間をいただきたい。

谷本会長 ちなみに、鳥取県（県庁）はあまり関心がないのか？

事務局 IC カードについては、あまり関心はない。

橋本委員 IC カードは、タクシー事業者も過去に実績がある。タクシー事業者もお手伝いできるようになった場合、IC カードは利用者が多いほど維持費が軽減されることも考えられ、バスだけでなくタクシーも使って IC カードの利用を広めるような工夫をとっていただきたい。

事務局 システムの管理などで維持費はかかる。IC カードを使用することで、運賃の支払いの手間が省かれる以外に、乗り継ぎの際の初乗り運賃を割引くことも可能であり、乗継抵抗をなくすという観点からも IC カードの導入は必要と考えている。しかし、機械の導入やセキュリティの問題などもあり、慎重に導入を進めている。ある程度、話がまとまったら、みなさんにもお示ししたい。

谷本会長 本件に関しては承認とする。

#### 案件4 南部地域新総合公共交通計画について

事務局・交通政策室（遠藤） 資料説明（資料 5-1 新しい総合公共システム導入の進捗状況）

事務局・交通政策室（遠藤） 資料説明（資料 5-2 南部幹線の運行計画（素案））

谷本会長 かなり分量が多かったが、座談会の話や幹線路線の話があった。特に、後半の話は専門的な内容もあったし、そもそも車両がどうなるかといった事業者の視点もあると思う。また、南部地域にお住まいでない場合、内容がわかりにくかった点はあるかもしれない。

事務局 まず、座談会の参加人数はどれくらいだったのか？

事務局 佐治では、1回の座談会はおよそ 20 名程度であった（一番多いところでは、27～28 名）。用瀬の中心部では 13 名、社は 20 名を切る程度、大村でも 20 名程度であった。

谷村委員 公共交通に関する話だけが議題というわけではなく、約 1.5 時間程度ある中で半分が公共交通に関する話であった。そのうち 10 分程度でこちらから説明を行い、残りの時間で意見をいただいたという形をとった。

谷村委員 計画の前提として、本数を増やし料金を安くするということが、基本的には賛成である。心配なのは、汽車の運賃が安いということ。バスの運賃はどうなるのか？便数が増えると乗車密度は減ってしまい、一便あたりの利用を維持することはできるのか？サービスレベルが上がることはありがたいし、利

用促進したいと思うが、便利になってもみんなが利用するかということに、確信がもてない。住民意見交換会の中で、サービスがよくなれば乗るといような意見はなかったか？

事務局 住民意見交換会に出てくるような人は、自家用車で来る人が多く、あまりそうした意見はいただけなかった。

谷村委員 通勤者をターゲットに取り上げてはどうか？自家用車を廃止するなど、みんなが生活様式を変えるべきである。サービスの向上はありがたいが、期待通りに乗ってくれるかという心配がある。

谷本会長 路線バスでは、学生のため高齢者のためというように捉えられてしまう。しかし、今回の計画は通勤者なども対象として、朝10分間隔などで運行する。若い人には、自身の問題じゃないなと感じられてしまうため、他にもいろいろと作戦を練っていくことが必要である。

谷村委員 幹線については、住民の人もそういうものかなと納得はした。支線については、地域の運行がどうなるのかを分かりやすく教えてほしい。どうやって利用するのかを、説明するようにしてほしい。

事務局 今までは具体的な運行計画をいきなり持って行っていたが、今回はまず意見を聞くということで進めている。次回は、具体的な計画案をもって議論する。

谷本会長 住民の方々にとって良いものを一緒に考えたいということだった。幹線路線についてはどうか？まだ、素案の段階で歯切れは悪いところがあるが。

JRの用瀬駅について質問がある。なぜ、跨線橋が必要なのか？

事務局 用瀬駅は踏切をわたってホーム（島）に行くようになっている。遮断機を活用して渡れば費用も少なくすむが、渡る距離も長くなってしまい、高齢者が渡ると時間もかかる。安全性を考慮して跨線橋で渡るべきとの考えを、JRさんも主張している。

駅前のお客様が、JR構内を通って国道に出てバスに乗るということを想定している。JRの利用者だけではなく、一般の人も利用できるようなものを考えていた。お年寄りが渡るのには時間もかかってしまう。跨線橋で渡るのが一番安全ではある。

谷村委員 駅の管理ということから考えると大変だと思うが、足の悪い人には上るのも困難である。できれば、国道まで出るのに安全対策を考えて平面で行けるような策を考えてほしい。

事務局 JRに対して、遮断機をという話もしたが、無人駅でもあるので安全性を考えると難しいということになった。何回か協議をしたが、結局いまのような形の返事になってしまっている。

まだ、検討段階の話であり跨線橋で決定というわけではない。引き続き、協議を行っていきたい。

谷本会長 跨線橋というのは、元気な方のための施設であり、今後、高齢者が増加する日本でその対応はあまりよくない。最終結果が跨線橋になるかもしれないが、何か、方策を考えていく必要がある。

村上委員 乗り継ぎについて、今の話が用瀬の前にできれば特に跨線橋などは必要ないと思う。今は、駅を中心にして上にも下にも遮断機がある。それをあえてバスと繋げる必要があるのか疑問がある。つなげるならば地下道だと思うが、

費用の面などで大変だと思う。また、この話が出てから1年になるが、今回の資料で河原（道の駅かわはら）の乗継拠点が駄目になり、リバーになるという計画になっている。私は、リバーはやめてほしい。新たなバスをショッピングセンターに乗り入れするとき、駐車場に乗り入れる必要がでてきて、必ず問題が出てくる。もともと、バスの乗り降りを想定した駐車場ではない。駐車場内に乗り入れるのは、事故や冬場の問題などを考えて良くない。

また、現在、日の丸自動車が使っている空地については考えているのか？北側と南側が駐車場になっていることはご存知か？駐車場内を通り抜けるのは、なかなか難しいのではないか？

事務局

車両はハイエースということを計画している。リバーの上手をバスの待機場所にさせていただいて、乗り場自体はショッピングセンターのアーケードの所にする。ショッピングセンター内にバスをとめるということは難しいので、通り過ぎるだけとする。一方通行の通り抜けという形をとりたい。無断駐車等あれば、通り抜けができなくなるが、そうした点への対応にはバスレーン舗装をするなどして対応したいと考えている。

村上委員  
事務局

幹線は便数が多いということだが、すべての便が支線と接続できるのか？  
できない。

村上委員

そうした点を住民に伝えなければいけない。たとえば、行きは良くても、帰りに幹線に乗って帰ってきたとき、実はその便は支線と接続していなかったといこともある。

事務局

支線の計画は、地域と協働で今後考えていく。拠点バス停にくるには、支線バス以外にも自転車などいろいろな方法があると思う。バス利用者に対しては、利用できる便などわかりやすいダイヤの表を作成したい。  
また、リバーの中にはバスレーンをつくる。リバーにも前向きに検討させていただいており、地域の活性化にもつながるのではないかと考えている。

村上委員  
事務局

テナントが何店か入っていたと思う。  
空いたテナントについては、地域の活性化や待合場所などとして活用することも考えており、地域の活性化と両面で考えようと思う。そうした点で、ご協力をお願いしたい。

村上委員  
事務局

保育園の跡地はどうなったのか？  
公園になっている。

南部委員

事業者が大変だなあと思う。たとえば、用瀬から鳥取駅まで行くのは6時から出発するわけだが、最初の3便については6時までに用瀬にバスがいないと運行できない。支線バスについても確保する必要がある。この場合、かなりの車両が朝早くから現地に必要になるのではないか？事業者さんは大変だと思うががんばってほしい。この幹線計画のダイヤは現実にできるのか？

中島委員

今は、幹線ダイヤだけ検討されているが、支線のダイヤ等についてもできるだけ早めに示していただきたい。

谷本会長  
樋口委員  
事務局

そうした点は、また今後詰めて頂けると思う。

樋口委員

確認だが、鳥取南は智頭方面の降り口の南ということなのか？

生協の配送場の近く

交通量がかなり多い。高齢者が渡るとなった場合、横断歩道の設置などは今後の検討課題ということにもなるが、非常に危険性が高いと思う。

事務局 土地はどのようにでもなるが、やはり出入りする方の安全性が大きな課題である。  
谷本会長 なかなか調整段階のものが多く、今回も経過報告という感じだが。これからも、こういった感じで進めるようにはなるかと思う。会議の進め方なども含めて意見はないか？

村上委員 以前から南部地域での導入は平成 24 年 10 月からということで計画されてきた。今回の資料には全く書いてないし、前回の資料であった計画の各項目も特に今回示されていないが、実施時期の目標は今までどおり平成 24 年 10 月ということでもいいのか？それとも、もう少し慎重にやっていくということか？

谷本会長 無理なところは無理にすることもない。目標は必要だが。特に問題等なければ、今後もこうした形で報告しながら進めていきたいと思う。帰って資料に目を通し、お気づきの点等あったら、事務局に連絡してほしい。

## 5：その他について

谷本会長 次回の予定はどうなっているか？  
事務局 支線に関しては9月を目処に、計画案を提示する第2回住民意見交換会を実施する。それらの案について事前に話をさせていただくか、事後報告という形になると思う。幹線路線については、費用との関係や事業者さんとの協議の結果について説明する。委員の皆様からも周知を図って欲しい。

谷本会長 座談会は9月にあるので、その辺りで実施する。ダイヤ以外にも、その他にどの程度、料金収入が見込めるかといった客観的な指標について提示していただけるということ。

以 上